

平成21年度 しらとり 事業報告書要約

平成21年度の概況

1 しらとり概況
21年度は新たな[しらとり]への基礎固めの年であった。病後児保育事業の受託終了・サービス事業の利用者減による事業縮小。また、母子生活支援施設の利用者変化への人材育成・「たち」との役割分担の再構築等課題の多い年であった。

2 母子生活支援施設
・退所世帯 11(公営住宅入居 4・アパート入居6・その他1)
その他は実家引取り
・入所世帯 7(夫の暴力等4・養育困難3)。再統合のケースが増えている傾向がみられる。その内訳として、夫の暴力4・若年母子1・再統合2がある。
・今年度在籍28世帯中、府中市からの受け入れが3世帯の他、保護実施機関は14市に及ぶ
・サービス自主評価(12月実施)、第三者評価(10月実施)

3 支援センター
・新規相談件数82件(前年は110件、うち虐待0件、前年は6件)
・オープンルームは1,733名の母子が参加。前年より約300名減少。
新型インフルエンザの影響による参加数減によるもの。
主にしらとり近隣地区(武蔵台・西原・北山・栄・本宿・西府)からの参加が多いが、昨年度に引き続き、国立市や国分寺市からの参加も増えている。
・NPは春・秋の2クールと約半年後に効果定着を目的にフォローアップセッションを春・秋グループ各1回ずつしらとりを会場に実施(延べ162組325名参加)。秋は府中市生涯学習センターを会場に実施。市内全域からの応募が定着してきた。
・ミニルームあいは3年目の実施。月1回、全12回、計89組、172名が参加した。

4 サービス事業
トワイライトステイ事業
・年間延1,691名(実利用者70名)前年実績2,535名に比べ67%(844名減)になった。
・府中市内他事業所の保育支援の充実や経済悪化による各企業の残業時間の削減、新型インフルエンザの影響等により利用人数が減少した。
・トワイライト利用年齢は2歳以上12歳であるが、保育児の利用は減少している。
ショートステイ事業
延人員は91名(宿泊 55名 日帰り36名) 前年実績115名に比べ79%になった。
実利用人数は12世帯19名
母子(父子)緊急一時保護事業
実人員11名で延190名が利用した(前年実績・実人員15名・延べ93名に比べ204%になった)
今年度は、20日を超える利用者が2世帯あったことが影響した。
病後児保育事業(平成22年3月末日終了)
登録数59名 利用延べ人数は12名(前年12名)

平成21年度の課題

1 利用者が日々安心・安全に生活および利用できる建物を維持管理する。「子ども」が安心して、健やかに育つ環境を最重視する。

2 東京都の動き 要保護児童対策と虐待防止対策の推進・心理療法担当職員の常勤化等がある。

3 白鳥寮における若年・外国籍・精神的課題・DVといった入所世帯への対応強化

4 21年度は入所問い合わせが減り、平成21年12月には16世帯(定員20世帯)となる。その後も、入所問い合わせが少なく、空き室がでている状況である。

5 府中市における新たなサービス事業の構築、展開
トワイライトステイ等の利用者の減少への対応
府中市他機関との連携

6 築14年を経た建物の修繕に備える整備計画の作成
設備の老朽化への適切な対応
中長期経費計画の策定

7 厚生労働省通達にあわせた、標準書式に基づく自立支援計画票の活用による利用者支援

8 記録の正確、適切な記述、文章作成を行うための職員のスキル向上
(21年度事業評価分析シート 課題より)

9 サービス自主評価・第三者評価結果を踏まえ、職員の連携と組織の確立
(21年度事業評価分析シート 課題より)

		サービス利用・提供状況	平成21年度事業計画の執行評価
運営・管理		1 常に「子ども」が生活する場であることを意識し、「安全・安心」な建物の維持管理を行った。とりわけ、防災面・設備面については計画的に補修・改修を行った。不審者把握を更に徹底した。(リアルタイムでの人員確認・不審者侵入防止)	1 毎月の防災訓練を実施し、施設における防災意識・技術の向上に努めた。防犯指導に沿った来所者の把握・部外者の侵入防止意識を高め、安全な生活環境の維持に努めた。
		2 職員の健康管理および心のケアに配慮した。	2 新型インフルエンザ感染予防対策を行い、衛生面の徹底を図った。また、職場環境整備を行った。
府中市委託事業	子ども家庭支援センター	3 コスト管理の徹底により、効率よい運営を実施した。	3 本部による共同契約や購入によるコストダウンを図った。
		4 第三者評価および自主サービス評価を継続し、利用者視点でのサービスを推進した。	4 第三者評価、サービス自主評価を実施し改善を図った。
病後児保育		5 各種研修に参加しスキルを高めた。(外部研修・施設内研修)	5 法人研修・外部研修に積極的な参加を促した。
		6 家族支援システムを活用した利用者支援を始めた。	6 家族支援システムを活用した利用者支援への変更を行った。
母親		1 府中市子ども家庭支援センター「たち」との連携を図った。事例研究や各種研修会等を合同で実施した。	1 市を含めての合同企画に参加し、実りあるものとなった。
		2 しらとり内支援会議を開催(年間18回)し、情報の共有を図った。	2 情報の共有を図ることにより、より多くの利用者支援を円滑に行うことができた。
母子生活支援	学童	3 新規相談件数は82件(前年110件) うち虐待相談は0件(前年6件)であった。	3 21年度より統計の数に問い合わせを追加し、しらとり独自の統計とした。
		4 オープンルームは年24回開催(あおぞら2回・白鐘・武蔵台公園)。延1733名が参加した。	4 多くの方が参加し、昨年より良いものとなった。
保育		5 NPプログラムは春秋2期実施(5月～7月・9月～11月・1月春期フォローアップ、3月秋期フォローアップ)計19組38名(延べ162組325名)の母子が参加した。	5 前年同様希望者が多かった。初めて生涯学習センターで実施。市の東部エリアへのプログラム提供ができた。
		6 ミニルームあいは、対象を子の年齢に限らない「育休中」「若年母子」「地震対策」などの会を実施した。	6 参加者に好評を得た。
連携	食事	1 府中市と協議の上、利用者ニーズの変化により平成21年度で病後児保育事業を終了した。	1 病児保育事業の拡大との関係の中、今年度で終了とした。
		2 登録人数59名・利用延べ人数は12名(前年12名)と利用人数は同数であった。	2 登録者は50名を超えるが、実際の利用者は10名超であった。
連携	サード	3 利用者と関係機関に対して病後児保育事業の終了をお知らせした。	3 市民が主体となっている「子育てひろば情報交換会」に出席した。
		1 利用者が自立に向けて、個々の目標を達成できるように支援した。	1 定期面接を実施し自立支援計画を作成したが記入を嫌がる利用者もいて苦慮した。
連携	サード	2 心理職(臨床心理士他)との連携による、心のケアに基づく利用者支援を行った。	2 心理士と連携し、個別カウンセリングやグループ療法「ミニマザー」を12回行うことができた。
		3 就業支援・ハローワークおよび求人案内の提供や技能習得を支援した。	3 職業訓練校を利用することはなかったが、英検や秘書検定資格を取ることができた。
連携	サード	4 若年層の利用者への自立・子育て支援を行った。	4 若年母子に対して、グループに参加してもらい、学ぶ機会を作り支援した。
		1 子どもたちが安心して日常生活を営めるように、施設での集団活動で仲間意識を育みながら支援した。	1 心理職と連携し、「セカンドステッププログラム」を施設内学童保育児を対象に行った。
連携	サード	2 必要に応じて個別支援を行い、個々に応じた関わりを行なった。また、心理職、学校、関係機関と連携し、支援した。	2 不登校児のための夜間学習を行った。また、学校での様子を把握するため、小・中学校との情報交換会を行った。
		3 子どもたちが、遊びや行事活動を通じて、豊かな感情を育むよう支援した。	3 日常の保育や行事を体験することで豊かな感情を育んだ。
連携	サード	4 様々な場面で子どもたちに発言の機会を設け、自主性を育んだ。	4 朝の会や帰りの会等で、子どもたちの考えや意見を聞く機会を設けた。また、行事などは子どもたちからの意見を尊重し、計画・実施した。
		5 子どもたちの個性や成長に合わせ、一人ひとりに合った支援を行った。	5 個別に話す時間を多く設け、個々に合った支援を行った。
連携	サード	1 乳幼児の保育に相応しい環境設定を行い、月齢に合った保育計画を立てて実行した。	1 月案・週案を立て、基本的な生活習慣の自立を図った。
		2 母親の就労と子育て支援のために、安全に十分配慮しながら寮内保育を行った。	2 月1回の健康診断、年2回のぎょう虫検査を実施した。
連携	サード	3 寮内保育児と通園児の交流を目的とした行事を計画した。	3 8月にあそぼうデイを実施し、通園児との交流を図った。
		1 季節に応じた旬の食材を献立に取り入れ、子どもたちの豊かな味覚を形成した。	1 旬の食材を使用し、献立を作成した。子どもたちの希望等も取り入れ、メニューを改善することができた。
連携	サード	2 衛生管理の徹底を行なった。	2 食材を、小分けに仕入れることで、無駄を省き新鮮な食材を使用できるように調整を行なった。
		3 乳幼児の年齢や体調に合わせた食事の提供、食物アレルギーへの代替食対応を行なった。	3 子ども担当職員から、子どもの年齢や体調、アレルギーなどを毎食確認し、それぞれの子どもに合わせた食事を提供した。
連携	サード	1 トワイライトは年間で延1,691名(前年比844名減)前年度に比べ67%に減少した。登録は88名、うち実利用は70名だった。	1 不況による各企業のノー残業デーや、新型インフルエンザの影響等により利用人数が減少した。
		2 迎いの車輛はつくば観光に委託した(1台契約)。	2 平日に1台契約のため、必要に応じて施設車両で迎えを行った。
連携	サード	3 ショートステイは、実績91名(前年115名) 短期利用者が多かった。	3 ショートステイでは他機関からの依頼が減少した。
		4 母子(父子)緊急一時保護事業は、5世帯実人員11名で延べ190名利用した。3月に長期利用者があったため前年より増加した。	4 今年度は長期利用者があり、利用方法に変化が見られた。